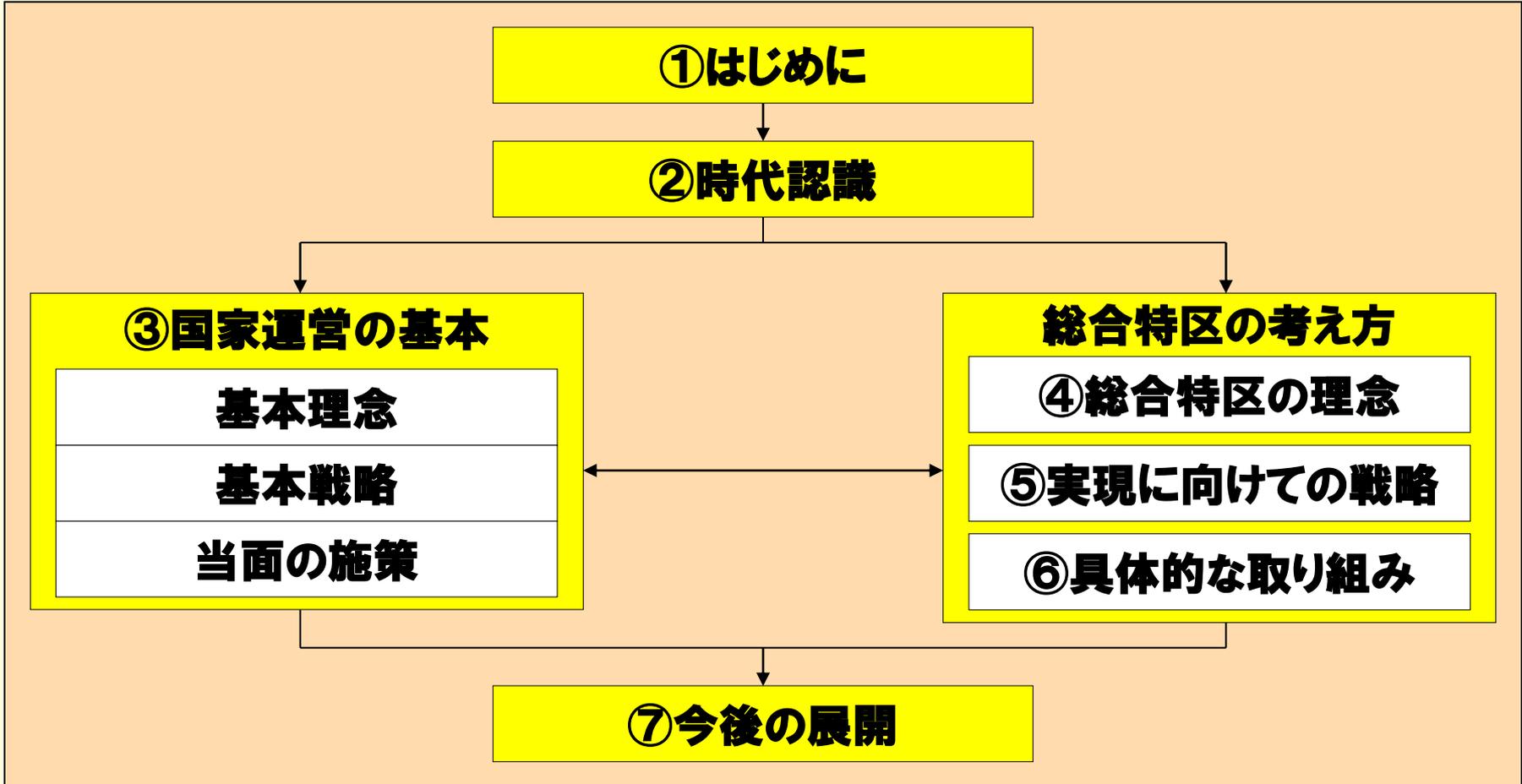


21世紀のまちづくり

～日本再生に向けた総合特区～

概要版



平成23年10月15日

日本再生プログラム推進フォーラム 地域のひな型研究会

3月11日の大震災(千年に一度の大震災)⇒ 変わるチャンス

未曾有の大震災から学ぶこと

- ・災害の危険性のない、永く暮らし続けられる大地での生活を…
- ・自然や未知なるものに対する畏敬の念を忘れずに…
- ・大量輸送に頼らず、人材、食料、エネルギー、財源などの地産地消を大切に…
- ・生活の基盤である地域コミュニティを、もっと元気に、豊かに…
- ・戦略的低エネルギーへの挑戦、そしてその実現を…

震災は、時代の流れを加速させる

- ・大震災からの復興は、真の意味での「21世紀らしいまちづくり」を促進。

21世紀らしいまちづくり

- ・不安定なエネルギー供給や流通で不便を被るなら、劇的な低エネルギー生活と安心な地産地消の実現に取り組んだ方が、苦勞の甲斐がある。
- ・しかも、環境に優しく自然災害とも無縁の国土利用の推進で、私たちは「健康で持続可能性の高い生活」を手に入れることが出来る。
- ・地域における究極の競争力である「個性」を、発展の原動力に。

過去を踏まえ、今という時代を再定義し、未来への方向性を地域全体で合意し、新しい地域づくりに取り組むべき時は、まさに今！

新しい国づくりに向けての時代認識

時代認識

政治経済が本格的に行き詰まった今、日本はどうすべきか？

既存の組織は動けない(機能不全)。既存組織を壊して自分たちで国づくりを！

日本本来の国づくりを！

日本は本来、『お国柄』で国づくりを進め、国を治めた。

官治ではなく、日本古来の**民政自治**(自分たちで国づくりを！=村の自治)

新しい国づくりへ向けての基本的な認識

物質文明は極限まで行きついた

成長志向から、選択の時代へ。

そして、物質文明と精神文明の融合と相乗効果を。

新しい社会の潮流

地域ごとの個性化、雇用第一、所得と雇用、質・熟練、
地域自給と戦略的低エネルギー、新しい公共の時代へ。

『お国柄』の国づくりを進めるための総合特区

官治ではなく民政自治、自分たちで国づくりを進めよう！

「行き過ぎ」から戻ってやり直す、という思想

以前の状態には二度と戻れない、という覚悟で！

なぜ今、大震災による困難があるのか？

愛に満ちた宇宙を創るための進化。そのための試練。

民政自治で
第2の城下町を！

新しい国家運営の基本理念

偉大なる共生社会の創造 — 共生とは進化なり —

国家運営のビジョン

21世紀世界初の『戦略的低エネルギー社会』の建設

国家運営で最も大切にされるもの

健康と持続可能性（いわゆる「LOHAS」的な国家運営を）

新しい国家運営の基本戦略

- ①小規模分散型システムによる運営。
- ②日本古来の風習である民政自治。
- ③民政自治で「第2の城下町」の建設。
- ④鎖国ではなく、日本の強いところで稼ぐ。
- ⑤放射線除染は、新しい科学に道を開く。
- ⑥投資銀行が新しい国家建設投資を。
- ⑦世界は日本の技術やノウハウ、文化、人を必要としている。

新しい国家運営の個別具体的戦略

- ①一人一芸 プラス チームワーク:個の花を咲かせよう
- ②新しい人生設計
- ③少子高齢化時代に競争力のある経済
- ④外交安保以外は徹底的に地方分権
- ⑤政府の役割は地域ごとに設計運営
- ⑥ウィン・ウインのたくましい外交
- ⑦地方、地域ごとの教育
- ⑧政府に対し、地域ごとの中負担中サービス、新しい公共。

新しい国家運営の当面の施策

- ①日本列島の大掃除
- ②総合特区の建設
- ③国民大集会の開催

総合特区の基本理念

偉大なる共生社会の創造 ～ 美しく豊かでモラルある国づくりのひな型 ～

LOHASでクリエイティブな低エネルギー社会を、舞台裏のスーパーテクノロジーが両立・補完・相互に支え合うハイブリッドな生活を、信頼できる仲間たちとの協働で手に入れる(サスティナビリティな生活＝ハイブリッドなクリエイティブライフ)。

総合特区で手に入れたい夢

地産地消や個性の重視、安心安全な国土利用を進め、
戦略的低エネルギー社会(LOHASな社会)による日本再生を目指す。

総合特区で手に入れる夢のイメージ

「昭和30年代の日本」を一つの手本に(風景として、エネルギー使用量として)

実現に向けて共有すべき価値観

- ①健康であること。持続可能性が高いこと。
- ②横型リーダーシップ、チームワークを基本とすること。
- ③バランス感覚を大切に考える考え方、生き方を。
- ④倫理(明德＝良心＝仏心＝良知＝致良知)を大切に。
- ⑤至誠一貫。
- ⑥生命こそプライオリティNo.1。
- ⑦国民総幸福量世界一をめざす。

枠組み

総合特区づくり、21世紀らしい制度づくり、新しい技術の結集

国土と風土と風景

逆・公共事業:山林、河川、海、農地も貴重な資源として維持発展

風土の再生・再構築:土地条件に合った土地利用へ転換(「防災」から「減災」へ)
気候風土に合った住宅づくり

新しい都市と田舎づくり:昭和30年代の景観再現、低エネルギー、最新技術

懐かしい未来づくり:レトロ・フューチャー(懐古的未来)

産業おこし

地産地消、地場産業育成、地域の特産物開発、6次産業

食糧自給率アップ、適地適作、エコプロダクツ／エコサービス、流通経路短縮

生涯を通して働ける社会、熟練度を高める仕事を創出

人づくり

新しい人材育成

最低限の人生の成功を達成できる教育を。学校、地域、家庭、職場の一体教育。
エコぐさ、エコことば、古老の知恵。生涯現役。

新しい組織づくり

地域における人材の発掘。地域をリードする(民政自治の)組織づくり。

個別テーマごとの総合特区

具体的な取り組み

サステイナブルデザイン国際会議の示す「サステイナブルなライフスタイル」と、NSPの描く未来像を融合させた、様々な**個別テーマ**。

市町村ごとの取り組み

全国の意識の高い市町村がテーマを選び、総合特区制度を活用。

- ・ **取り組み易いテーマ**
- ・ **取り組みたいテーマ**

市町村に対するNSPからの支援

NSPは、各地での取組を**サポート、コーディネート**。

- ・ 緩和すべき規制、強化すべきルール、まったく新しいルール
- ・ 強化または新規に期待されるサービス
- ・ 必要とされる技術や専門スタッフ

地域での活動を全世界にアピールするための**メディア戦略**を展開。

一点突破、そして全面展開へ

NSPとしての狙いは、そのような市町村ごとの、テーマごとの取り組みを全国各所で展開し、それぞれの市町村での「**一点突破**」を目指す。

そして、その成功事例をもとに、全国の普通の市町村に対し、様々なテーマの実現手法を提示し、長期的（20年、50年）視点での「**全面展開**」、**健康で持続可能な21世紀ニッポン**を創造する。

「新しい公共」と民政自治

民主導(民政自治)で、官が協調(コラボレーション)

新しい中央と地方の関係: バランスある発展

一極集中型・独占(寡占)の否定、地域の力で(基本は自力で)

新しいファンドづくり

平成版日本興業銀行(プロジェクト・ファイナンス)、寄付の文化を

新しい試みのエリア「総合特区」の指定

新しい時代の扉

起爆剤(回天の原動力)で、人が集まる、金が集まる、人が走る
求心力と波及効果の高い「起爆剤」が必要。

この時代の最高の人と技術と思想を結集する「空気」を作る。

ステップ①政治経済の行き詰まり(機能停止)

ステップ②人材を一本釣り(組織の枠を超えた仲間さがし、溜り場を)
(地域ごとの戦国大名(リーダー)や有力者、技術者、有識者)

ステップ③民主導の総決起集会とメディア戦略(国内外)の展開

ステップ④集まった仲間たちと、新しい日本づくりについて議論

ステップ⑤そして、民が創る『城下町』を(具体的に動くところから)
(国のルールのないところで、経済中心に地域づくり)